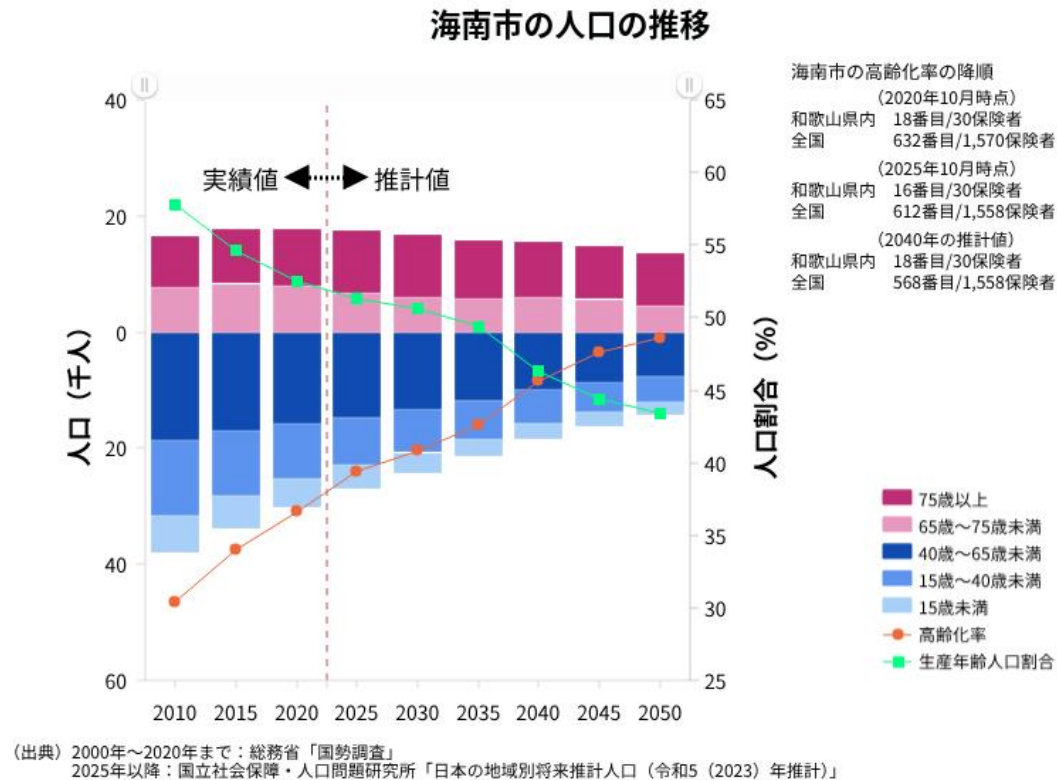


地域包括ケア「見える化」システムを活用した海南市介護保険事業の状況分析

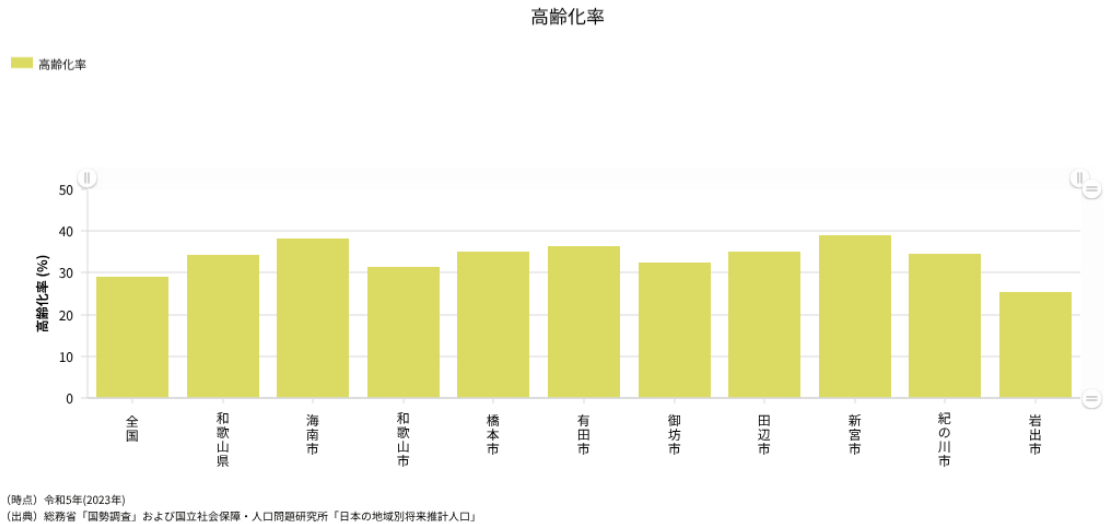
1. 人口の推移

海南市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」によると、2030年に41,022人、2040年に34,160人になると推計されています。また、高齢化率は今後も上昇を続け、65歳以上の人口の減少に加え、2030年には75歳以上の人口も減少傾向に転じる見込みです。

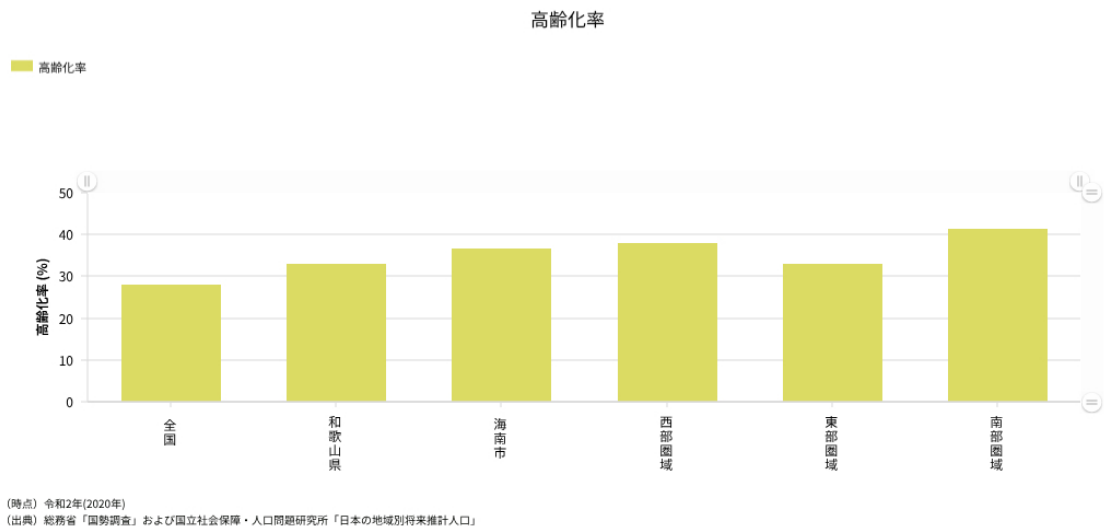


2. 高齢化率

海南市の令和5年の高齢化率は38.2%で、全国の高齢化率の29.0%、和歌山県の34.2%を上回り、和歌山県下9市の中で新宮市に次いで2番目に高い値となっています。



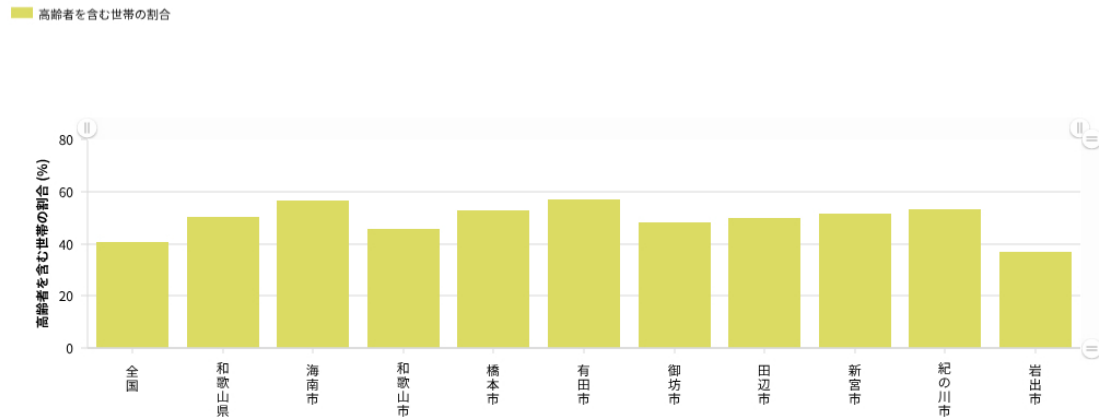
令和2年の海南市を生活圏域別で比較した場合、南部圏域が41.3%で最も高く、最も低い東部圏域は、和歌山県平均より低い32.9%となっています。



3. 高齢者を含む世帯の割合

海南市の令和2年の高齢者を含む世帯の割合は56.6%で、全国の割合40.7%、和歌山県の50.1%を上回り、和歌山県下9市の中で有田市に次いで2番目に高い値となっています。

高齢者を含む世帯の割合

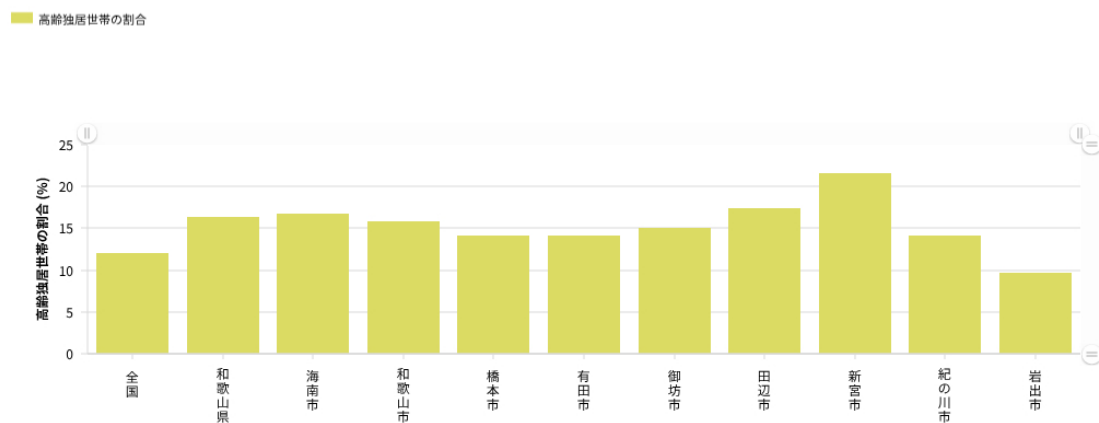


(時点) 令和2年(2020年)
(出典) 総務省「国勢調査」

4. 高齢独居世帯の割合

海南市の令和2年の高齢独居世帯の割合は16.8%で、全国の割合12.1%、和歌山県の16.4%を上回り、和歌山県下9市の中で新宮市、田辺市に次いで3番目に高い値となっています。

高齢独居世帯の割合

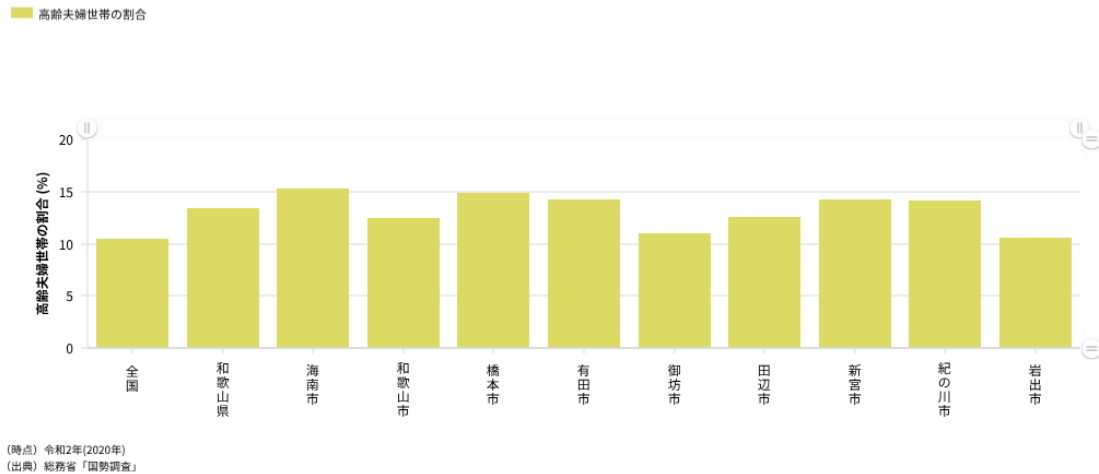


(時点) 令和2年(2020年)
(出典) 総務省「国勢調査」

5. 高齢夫婦世帯の割合

海南市の令和2年の高齢夫婦世帯の割合は 15.3%で、全国の割合 10.5%、和歌山県の13.4%を上回り、和歌山県下9市の中で最も高い値となっています。

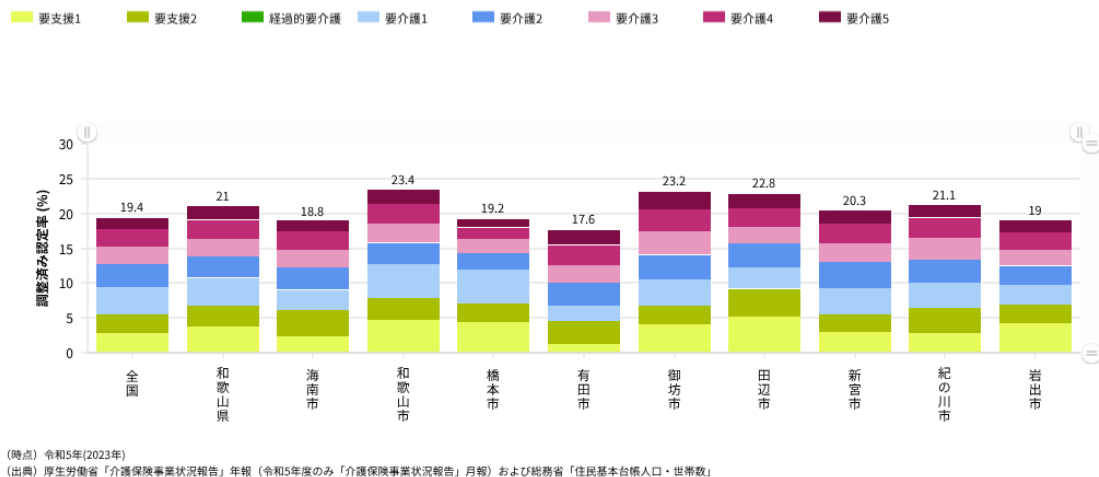
高齢夫婦世帯の割合



6. 調整済み認定率

海南市の令和5年の調整済み認定率は 18.8%で、全国の割合 19.4%、和歌山県の 21.0%を下回り、和歌山県下9市の中で有田市に次いで低い値となっています。

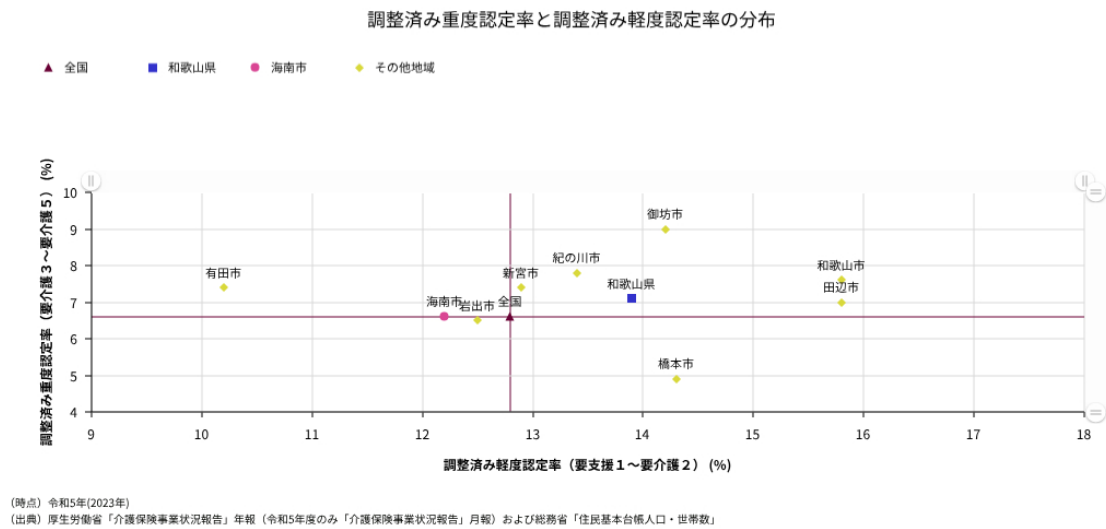
調整済み認定率（要介護度別）



「調整済み認定率」とは、認定率の多寡に大きな影響を及ぼす、「第1号被保険者の性・年齢構成」の影響を除外した認定率です。

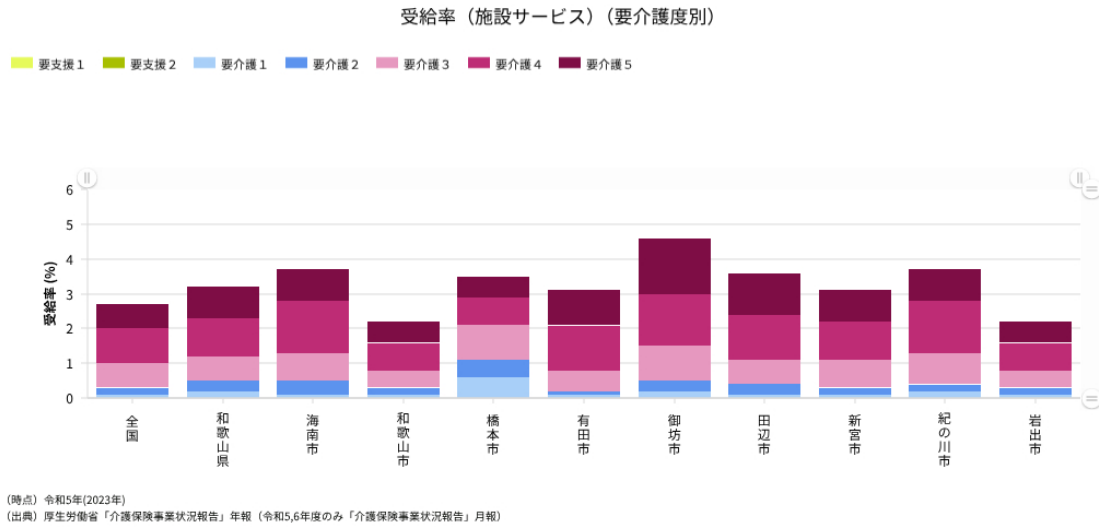
7. 調整済み重度認定率と調整済み軽度認定率の分布

海南市の令和5年の調整済み重度認定率は全国平均並みとなっており、調整済み軽度認定率は、全国平均を下回っています。いずれも和歌山県下9市の中では、重度は橋本市、岩出市に次いで3番目に低く、軽度は有田市に次いで2番目に低い値となっています。

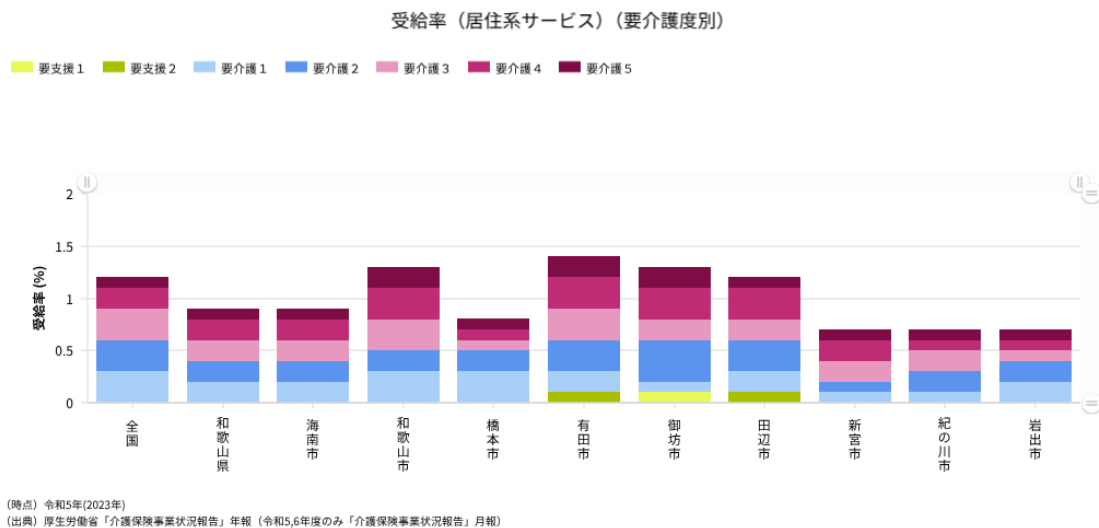


8. 受給率（サービス系列別、要介護度別）

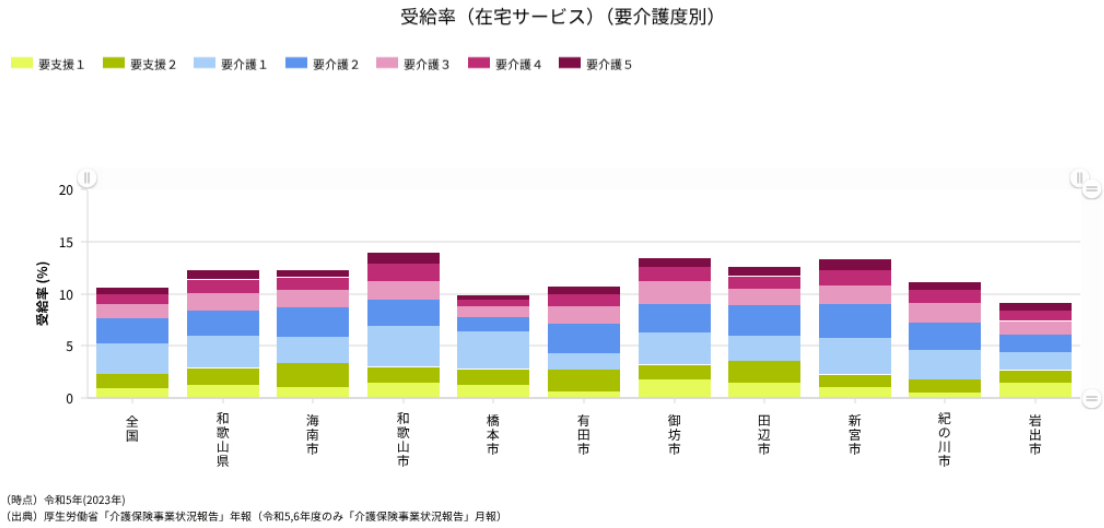
海南市の令和5年の施設サービス受給率は、全国および和歌山県の割合を上回っており、県下9市の中で比較的高い値となっています。



海南市の令和5年の居住系サービス受給率は、全国の割合を下回っており、和歌山県の割合と類似しています。県下9市の中では平均に近い値となっています。

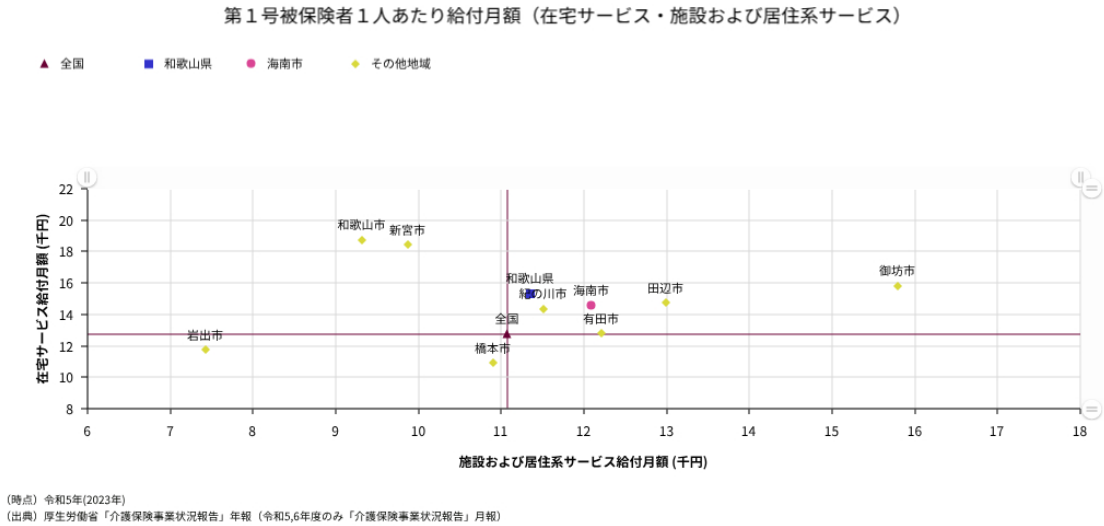


海南市の令和5年の在宅サービス受給率は、全国の割合を上回っており、和歌山県の割合と類似しています。県下9市の中では平均に近い値となっています。



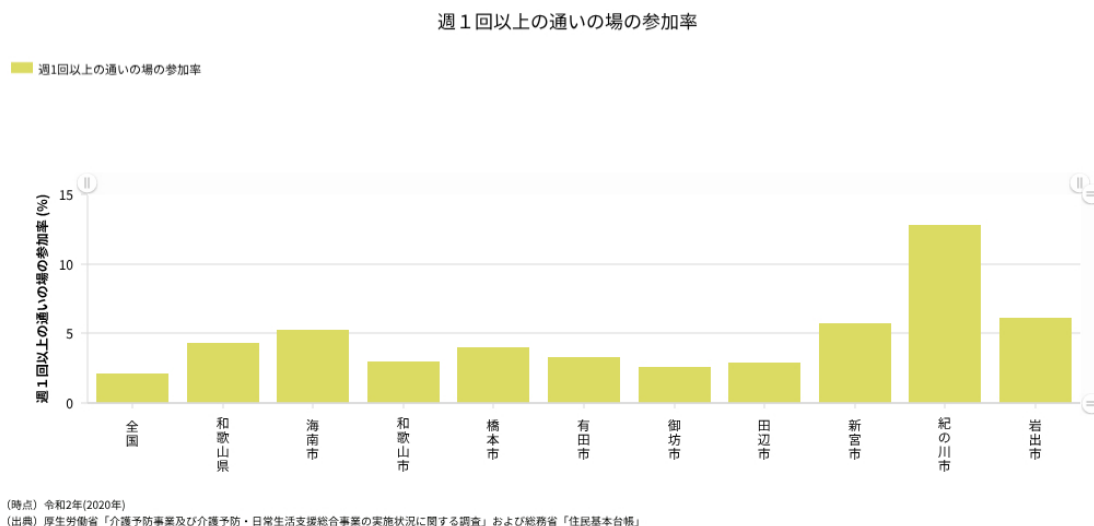
9. 第1号被保険者1人あたり給付月額（サービス系列別）

海南市の令和5年の第1号被保険者1人あたり給付月額は、在宅サービス・施設および居住系サービスともに全国の平均を上回っておりますが、和歌山県と比較すると、在宅サービスは下回り、施設および居住系サービスは上回っています。



10. 週1回以上の通いの場の参加率

令和2年の海南市の週1回以上の通いの場の参加率は、5.3%で、全国の2.1%、和歌山県の割合4.3%を上回り、和歌山県下9市では、紀の川市、岩出市、新宮市に次いで4番目に高い値となっています。



11. 海南市の現状分析と要因

全国および和歌山県の割合と比べ高齢化率が高く、高齢者を含む世帯の割合や高齢者夫婦世帯の割合についても高くなっており、「老老介護」状態に置かれやすい状況にあります。生活圏域別では、西部圏域や南部圏域の高齢化率が進んでいます。

調整済み認定率は、重度・軽度ともに和歌山県下9市の中でも比較的低くなっています。これは、心身機能の低下予防や、高齢者が心身機能を維持できるように、日常生活に取り入れやすい運動等の教室を開催するなど、介護予防や健康づくりの取組を積極的に行っており、これらの取組が認定率を下けている一つの要因であると思われます。

施設サービスは、市内に介護老人保健施設を有しており、近隣市町の施設など地理的に利用しやすい環境にあることから、利用率が高くなっているものと思われます。

居住系サービスについては、市内に（地域密着型）特定施設入居者生活介護を提供する事業所がないことから、利用率が低くなっているものと思われます。

在宅サービスについては、和歌山県が全国平均を上回っていることから、海南市だけの要因ではなく、少子高齢化など和歌山県の地域的な要因が大きいものと思われます。